

スイミー

レオニレオニ さく・絵
たにかわしゅんたろうやく

- ① 広い 海の どこかに、小さな 魚の きょうだい
たちが、たのしく くらしていた。
- ② みんな一赤いのに、一びきだけは、からす貝よりも
まっくら。およぐのは、だれよりも はやかかった。
- ③ 名前は スイミー。



- ④ ある 日、
おそろしい まぐろが、
おなかを すかせて、
すごい はやさて
ミサイルみたいに
つつこんで きた。

- ⑤ 一口で、まぐろは、
小さな 赤い
魚たちを、一びき
のこらずのみこんだ。
- ⑥ にげたのは
スイミーだけ。
- ⑦ スイミーはおよいだ、
くらい 海の そこを。
こわかった。さびしかった。
とても かなしかった。



⑧ けれど、海には、すばらしいものがいっぱいあった。おもしろいものを見るたびに、スイミーは、だんだん元気をとりもどした。

⑨ にじ色の

ゼリーのようなくらげ。

⑩ 水中ブルドーザーみたいないせえび。

⑪ 見たこともない

魚たち。見えない糸で

ひっぱられて いる。

⑫ ドロップみたいな岩から

生えて いる、こんぶや

わかめの 林。

⑬ うなぎ。かおを見る

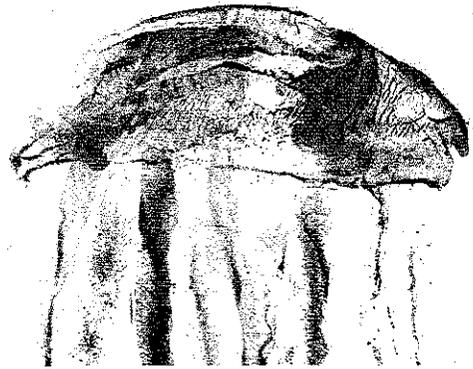
ころには、しっぽを わすれて

いるほど 長い。

⑭ そして、風に ゆれる

もも色の やしの 木みたいな

いそぎんちゃく。



⑮ そのとき、岩かげに
スイミーは 見つけた、
スイミーのと そっくりの、

小さな 魚の きょうだいたちを。

⑯ スイミーは 言った。

「出て こいよ。みんなて あそぼう。

おもしろい ものが いっぱいだよ。」

⑰ 小さな 赤い 魚たちは、こたえた。

「だめだよ。大きな 魚に たべられて しまうよ。」

「だけど、いつまでも そこに じっと して いる

わけには いかないよ。なんとか かんがえなくちゃ。」

⑱ スイミーは かんがえた。いろいろ かんがえた。

うんと かんがえた。

①9 それから、とつぜん、
スイミーは さげんだ。

「そうだ。みんな

いっしょに およぐんだ。

海で いちばん 大きな

魚の ふりを して。」

②0 スイミーは 教えた。けっして、

はなればなれに ならない こと。

みんな、もちばを まもる こと。

②1 みんなが、一ぴきの 大きな

魚みたいに およげるように
なった とき、

スイミーは 言った。

「ぼくが、目に なるう。」

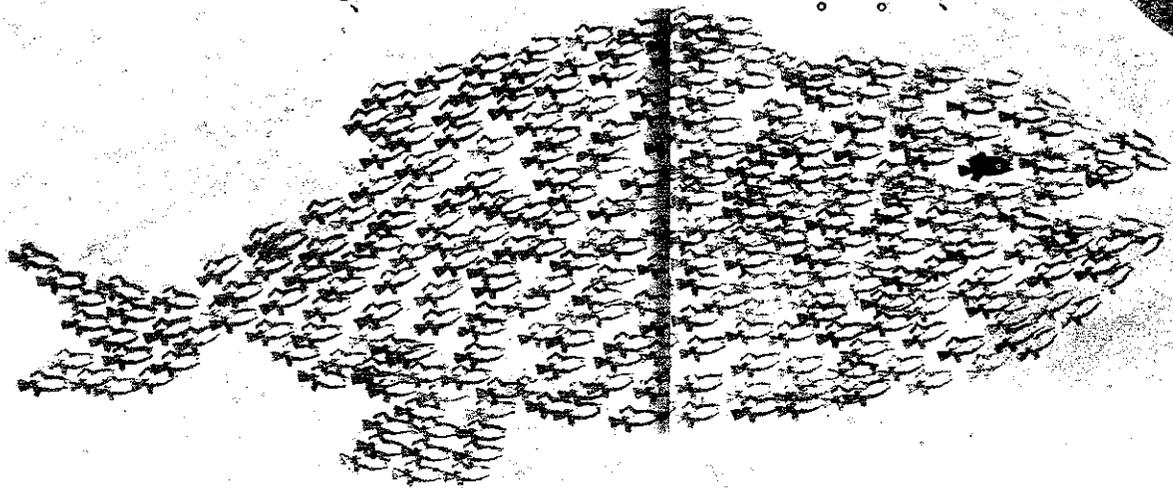
②2 あさの つめたい 水の 中を、

ひるの かがやく 光の 中を、

みんなは およぎ、

大きな 魚を おい出した。

レオ・レオニさんは、「せかい いち おおきな
うち」あいうえおの きなども 書いて います。



光ひかり 教えるおしやる